

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390400238		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家栄生		
所在地	名古屋市中区西1丁目17-22		
自己評価作成日	平成28年11月11日	評価結果市町村受理日	平成29年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人を大事にする」を理念に掲げ、利用者の意思及び人格を尊重し常に利用者の立場に立ち、利用者一人ひとりの状況に合わせた支援に努めている。日々の支援の中で利用者の思い・気持ちを汲み、寄り添い・尊厳を守るケアの実践。眼差しを向け、肌を触れるなど親身になった対応や利用者職員とのきずなを大切に温かいホーム創りに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_UZZ_kan1=TRUE&igvosyoCd=2390400238-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大通から少し入った静かな住宅地の中に事業所があり1階には小規模多機能居宅介護事業所、2階にグループホームがある。事業所の玄関横には、屋根神様の小さな社があり、町内の守り神として町内の役員の方たちや入居者が大切に世話をしている。地域の方や入居者がお参りをし、地域の人たちとの交流の場ともなっている。運営推進会議は同地域の3つの事業所と合同で行なわれ、地域や入居者、家族など多くの出席を得ている。研修等も取り入れながら、有意義な会議となるよう工夫をしている。「人を大切に」を理念に、常に入居者一人ひとりの状況に合わせた支援ができるよう話し合い、入居者と目線を同じくして寄り添いながら、温かいホーム作りに向けて職員が一丸となって取り組んでいる。明るく広い居間で入居者は好きなテレビを見たり、新聞を読んだり職員と会話を楽しみながら、ゆったりした時間を過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成28年11月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
		項目	
I 理念に基づく運営			
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人を大事にする」事を理念に掲げ、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ち、利用者が「生活の主体者」となるようなサービスに努めている	事業所の理念は、事務所に掲示したり、ファイリングし、いつでも誰でも手に取って見られるようになっている。毎月のカンファレンスで、理念について話し合い、理解を深めている。また事業所独自の目標を設定しいつでも見えるところに掲示している。ユニットリーダーを中心に職員の意思統一を図り、ケアにつなげている。
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所主催で毎月1回オープンカフェを開催し地域の方々との交流を深めている。地域の年間行事(祈願祭・お祭り)への参加を勧め、また日頃の散歩や日常的に挨拶を交わすなど地域とのつながりを大切にしている	町内会に加入し、地域の年間行事(祈願祭・初詣・豆まき・祭り)に、積極的に参加をし交流を深めている。事業所主催のオープンカフェでは、地域の方のダンスやハーモニカ演奏、フラダンス等があり地域の方と一緒に楽しんでいる。日々の散歩や買い物で挨拶を交わし地域とのつながりを大切にしている。中学生や介護福祉士専門学校の体験学習を受け入れている。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内役員・民生委員の方等を通して地域の高齢者への支援を働きかけ、皆さんに気軽に立ち寄って頂き交流の場となるよう努めている	
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎の運営推進会議では事業所の実績報告や近況報告等を行い参加者の意見や提案をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は年6回、同地域の法人3事業所と合同で開催している。入居者や家族、各地区の町内会長、民生委員、老人クラブ会長、いきいき支援センター、地域住民の参加を得て、事業所の取り組み状況の報告や情報交換が行われている。出された意見や提案はカンファレンス等で協議しサービスの向上や運営に活かしている。入居者家族へ議事録を送付している。
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政への認定提出書類の提出など、機会ある毎に市町村担当者から指導を頂き協力関係の構築に努めている	認定書類や申請の代行業務など機会あるごとに市の担当窓口を訪れ、相談内容のアドバイスをを受けたり、情報交換をしている。法令に関する変更事項等の指導を受けたり、市主催の研修や講演会等に参加する等連携を密にし、協力関係を築いている。
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の支援の中で身体拘束をしないケアの実践に努め、日々の申し送りや職員会議等機会ある毎に身体拘束に対する認識・理解・周知を図っている。抑制や制止が見過ごされないよう全職員が注意を払っている	法人として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルを整備し、研修に力を入れ、日々の申し送り時や会議等、機会あるごとに拘束に対する話し合いを重ね、職員間で認識の共有を図っている。ケアにおいては入居者一人ひとりの安全と拘束感のない生活が出来るように、言葉の拘束や心の拘束に注意をして、その人にあったケアができるように努めている。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や研修等で高齢者虐待防止関連法について学び虐待が見過ごされないよう注意を払っている。声かけ等においても指示的な言葉にならないよう、言葉の虐待にならないよう等、防止に努めている	

自己部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護事業や成年後見人制度について学び必要な方には支援を行い現在2名の方が後見人制度を利用している		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	28年2月のリニューアルオープンから各種改定等の説明を行う際、十分な理解、納得を頂けるよう努めている。契約時には利用者の方に十分理解して頂けるよう説明に努めている		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族の方の面会時にはできる限り意見や要望をお聞きして、運営に反映している	入居者からは日々の関わりの中から、家族からは面会時や行事、運営推進会議等機会あることに意見や要望を聞き、記録をして、カンファレンス等で話し合い運営に反映している。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員個々の意見や提案を聞く機会を設け、見直しや改善に向けている。また会議等機会ある毎に代表者に直接伝えることができる体制が整備されている	日々の業務の中や申し送り時、月1回のミーティング時に職員からの意見や提案を聞き、見直しや改善に向けて話し合い運営に反映させている。職員との個別面談があり、将来に対する目標や意見・要望を聞く機会を設けている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々がやりがいを持てるよう給与水準の引き上げやより良い職場環境・条件整備に努めている。会社独自の制度があり全職員がやりがいを持って働き続けられるよう職場整備に努めている		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全体が均等に研修を受けられるように年間計画を立て働きながらトレーニングしていくことを進めている。資格取得に対し会社がバックアップし学びやすい環境を整えており職員の資格取得者が増えている		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会を持ち相互訪問等を通して、お互いのより良いサービス向上に努めている。地域住民参加型の勉強会へ参加し、サービスの質の向上に努めている		

自己 部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや希望に耳を傾け、何か困っていることがないか、伝えることができない事なども考慮しながら安心して頂けるような対応に努めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時など初期において、家族等から困っていることや不安・要望等を聞きながら信頼関係の構築に努めている。家族の申し出をできるだけ具体的に聞きながら協力を得ながら関係づくりに努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、身体面・精神面等その時々状況に合わせた支援や他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、職員は利用者と職員が介護する、される立場にならないよう、ともに暮らしをする者同士のきずなを大切にしている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に本人・家族のきずなを大切にし共に本人を支えていけるよう努めている。家族の面会時間について、日中長い滞在を希望する家族の方には家族間でのきずなを大切にさせて頂けるよう支援している		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り、本人がこれまで大切にしてきた関係や物事を続けられるよう、本人・家族の希望を聞きながら希望に沿うよう努めている	入居者のこれまでの生活歴を把握し、本人や家族から情報を得て、本人が大切にしてきた人や場所、物事が続けられるような支援に努めている。馴染みの喫茶店に出掛けたり、家族や友人に手作りの季節感を取り入れた絵手紙を書いて送ったり、屋根神様にお供えをする等大切にしてきた関係継続を工夫している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないよう利用者同士の関わりをフォローし、支え合えるよう支援に努めている。リビングにあるソファに皆さんが集い、憩いの場所になっており支え合い楽しく過ごして頂けるよう支援に努めている		

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
			項目
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後においても必要に応じ、本人・家族からの相談を受け支援に努めている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努め、何事も本人の希望を尊重し検討している	基本的には傾聴に努め、それぞれの入居者が一番リラックス出来る入浴時や外出時などで、会話の中から希望や意向を把握するようにしている。意志疎通の困難な時は、表情をくみ取ったり日々のケアの中で思いを把握するよう努め、本人本位に検討をしてケアにつなげている。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らし方・思いや気持ちなどを汲むなど、これまでの生活全体の把握に努め、本人の望まれる暮らしができるよう支援している	
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースを大切に、一日の心身の状態、有する能力等の把握に努めている	
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすためのケアの在り方、処遇について本人・家族・関係者と話し合い現状に沿った介護計画を作成し、適宜本人の状況や思いや気持ちを聞きながら見直している	モニタリングは、3か月に1回行い、介護計画は、身体状況の変化がなければ年1回の見直しを行っている。常時ミーティングで問題や課題について見直しを行い、必要があれば医師や看護師に意見を求めケアに活かしている。本人や家族とも話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録の充実に努め、職員間で情報の共有、気づきや工夫を申し送りながら、実践や介護計画の見直しに生かしている	
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ対応、柔軟な対応に努めサービスの多機能化に取り組んでいる	

自己部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが地域の中で、これまで培われてきたことなどを支えに、安全で豊かな暮らしを送れるよう支援している		
30	11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、希望する医療機関へ受診して頂き、受診時にはホームでの様子・健康状態等、必要な情報提供を行いかかりつけ医との連携に努めている	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科・歯科は月2回、眼科は月1回の提携医による往診がある。訪問看護師とも連携を取り健康管理に努めている。健康状態に変化があった時は、協力医療機関や訪問看護師等による連携体制のもと、速やかで適切な医療提供に努めている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携し個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。体調不良時には速やかにクリニックに相談し、医師や看護師の訪問があり治療を受けられている		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーの提供や職員が面会に行くようにしており、また早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めている		
33	12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には指針の説明や同意を頂いており、重度化する可能性がある場合には話し合い方向性を決めるよう努めている。看取りの方については、家族への報告、意向確認を行い医師や看護師の指導を仰ぎ適切な支援に努めている	入居時に重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにしている。重度化する可能性がある場合には、早めに家族に報告をし、主治医、訪問看護師を交えて話し合いを重ね方針を確認し、可能な限り希望に添う看取りが出来るよう支援をしている。見取りの研修に参加し、職員間で共有したり、看取り経験を踏まえて職員のメンタルケアにも努めている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当や初期対応が身につけられるよう、学ぶ機会を設け利用者の急変や事故発生時の対応に努めている		
35	13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て防災訓練を実施、避難訓練においては地域との合同防災訓練や防火訓練等を実施している	年間の防災訓練計画を立て、業者の協力を得て年2回消防設備点検と機器点検を行い、昼間、夜間想定避難訓練を実施している。年1回の地域との合同の防災訓練や防火訓練にも参加し避難経路等を確認している。	想定外の災害が起こっている昨今である。地域との連携の中で、協力をお願いすることばかりではなく、事業所として出来ることも提示しながら地域相互の関係をより深めていくことが望まれる。

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容			
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーには十分配慮しながら日々の支援に努めている	「人生の先輩」を基本に、入居者一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し、声掛けや目線に配慮した支援に心掛けている。職員は、日々のカンファレンスや朝礼で、特に雑になりがちな言葉使いに配慮し、「いつ誰が聞いても不快にならない言葉使い」をするよう確認し合い支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に耳を傾け、毎日の生活の中で思い・希望が自己決定できるよう支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いやペースを大切に、その日の過ごし方の希望を汲み取り希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやその人らしい装いができるよう、思いを聞きながら整容・身支度の支援をしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事を楽しみにして頂けるよう、個々の好みの把握に努め、食事作りでは事前準備を整え負担なく楽しみながら作業をして頂けるよう支援をしている	毎日の食事が楽しみになるように季節の食材や入居者の好みを取り入れた献立を立て、味付けにも工夫している。事前準備や後片付けはその人の能力に合わせて職員と一緒にやっている。おやつ作りは職員が見守る中、ホットケーキやおはぎづくりを楽しんでいる。外食ツアーやモーニングも楽しみな行事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、食事形態・食事量の確保、栄養バランスの配慮、糖尿病食の人について適切な支援に努めている。水分量については脱水・熱発等に注意を払い飲料の十分な摂取に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持、疾病防止等から毎食後一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアを実施している。適宜、訪問歯科医・歯科衛生士による指導を受けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄面の詳細記録に努め、毎日の排泄状況を把握し、一人ひとりの排泄リズムに合わせた排泄支援に努めている	排泄状況はチェック表で確認し、その人の排泄パターンを把握したり、表情や行動から察知してトイレでの排泄が維持できるように支援している。排便についても記録を基に水分や運動など、一人ひとりのリズムに合わせた支援をしたり、便秘時には看護師や医師と相談して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録・申し送り等をもとに排便状況を確認し、個々に応じた予防と対応に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望・安心・安全を考慮し、一人ひとりが入浴を楽しみにして頂けるよう、個々に沿った支援をしている	入浴は3日に1回を基本としているが、入居者の希望を入れたり、汚染等があるときは適宜入浴をしている。湯は一人ひとり入れ替え気持ちよく、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。冬季はヒートショックに配慮したり、季節を感じるゆず湯やみかん湯、しょうぶ湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活でのストレス・病気等によるストレスなど軽減できるよう、その時々に応じ休息できる環境を整えるなど配慮、夜間の安眠につながるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが使用している薬やその作用・用法・量について、理解・把握に努め、服薬支援・服薬確認・副作用の有無・症状の変化等注意を払っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や暮らし方・楽しみ・張り合い等を考慮しながら支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って屋外に出かけられるよう本人の希望・家族や地域の方々の協力を得ながら努めている。外出の機会を多く持てるよう日常的な散歩・喫茶店・ドライブ等支援している	天候が良い日には、毎日入居者と散歩に出かけられるよう努めている。家族の協力を得て年末年始の外出や外泊、お盆のお墓参り、家族の方のお祝いなどに出掛けることもある。また、知人や友人の集まるオープンカフェやお寺参りに出かけたり、季節の花見や紅葉狩り、外食ツアーも楽しみな行事となっている。	

自己部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じ、家族の意見も考慮しながら支援している		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については本人・家族と話し合い希望に応じている。毎月、友人・知人・家族の方に向けて「絵手紙」を勧め楽しみになるよう支援している		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は快適に過ごしやすいよう配慮し、刺激にならないような工夫、潤いのある生活、居心地よく過ごして頂けるよう支援している。リビングのソファに毛布を用意し皆さんで仮眠をとられるなど穏やかなひとときがある	リビングの天井は高く明るい雰囲気、食堂と居間がワンフロアとなっており、入居者の動きや気配が見渡せるようになっている。居間の壁面には入居者の得意な俳句やぬり絵など季節感のある作品が飾られている。体操やカラオケ、絵手紙などができるゆったりした居心地の良い空間作りを工夫している。疲れたらソファでリラックスできるような小さい毛布なども用意されている	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は一人ひとりの尊厳を重視しながら、テーブル席の位置、ソファの位置など体調(動作しやすいよう)や関係性等を考慮し支援している		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は毎日心地よく過ごせるよう、清潔保持・安全・換気等に配慮、職員は定期的な巡回だけでなく状況に応じ、適宜訪室するなど努めている	居室は、使い慣れた筆筒やテーブル、加湿器などを持ち込み、好みのものを飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。清潔保持と安全に配慮して心地よい生活空間作りに努めている。特に居室での転倒防止には注意をしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は常に周囲に危険物や障害になるものがないか等安全を確認し、また自立を尊重できるような環境作りに配慮している		